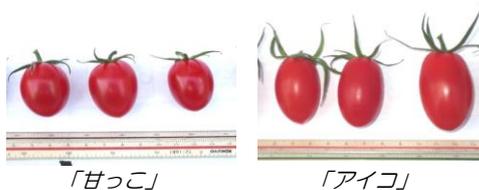




## ～ ミニトマト品種比較 ～

小笠原の主要品種である「甘っこ」(丸種)は、糖度が高く安定した品質で定評があり、最近10年間程は他品種の導入はされていません。産地を維持向上させるためには、より優れた品質と生産性を求め、地域条件に適した優良品種を追求することが不可欠です。この目的のため毎年、品種比較実証栽培を実施しています。

27年度から28年度にかけては、内地で人気の高い「アイコ」(サカタのタネ)を「甘っこ」と比較しました。



平成27年9月播種、10月定植、収穫期間12月～翌年5月で、作型、栽植密度等は母島における一般的な方法で栽培しました。

**○収量** 収穫果数は、ほぼ同数でしたが、平均1果重が1g以上重い「アイコ」が「甘っこ」と比べて約8%収量が多い結果となりました。いずれの品種ともに2月上中旬をピークにして全収量のうち30%の収量がありました。

**○大きさ** 平均1果重は、「甘っこ」11.2g、「アイコ」12.3gでした。「甘っこ」では、M(15～10g)が70%以上を占めますが、2L(>20g)が0%でした。「アイコ」は2L、L(20～

15g)が20%近くありました。

**○糖度** 「甘っこ」は、12月と2月上旬を除く期間、10度以上でした。「アイコ」は12月と1月前半が8度台で、他の期間は9度台でした。全期間を通じて、「アイコ」に比べて「甘っこ」が、常に1度以上高い結果となりました(図1)。

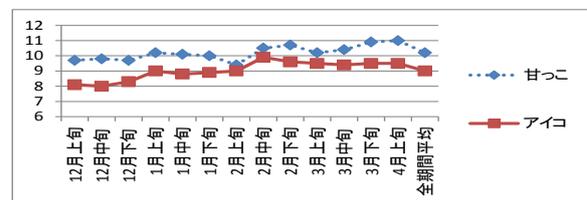


図1 収穫期間の糖度推移

**○裂果(割れ)** 「アイコ」で15.3%の発生に対して「甘っこ」では32.5%の発生となりました。1月下旬～2月上旬には収穫果の概ね70%で発生しました。

**○萼(ガク)の枯れ・変色** 2月下旬以降「アイコ」では平均1%の発生がありましたが、「甘っこ」では3月上旬以降平均0.2%の発生に留まりました。

**【まとめ】** 収量では両品種ともに同等ですが、最大の商品価値である糖度では「甘っこ」が優位となりました。しかしながら、今季の気象条件がもたらした裂果(割れ)は、「甘っこ」で発生が多く、生産性においては問題があり、今後の栽培技術改良による対応が急務となります。  
 <宮農研修所：藤本>

### 農業者セミナーのお知らせ

今年度も農業者セミナーを開講します。今後の詳細な予定は未定ですが、決まり次第「農業センターニュース」や「村民便り」等でお知らせします。

ご意見・ご質問等ございましたら農業センター(担当：小野)までお問い合わせください。

(TEL2-2104/ FAX2-2565)

## ～実例をもとにしたパッション病害虫の予防・対処法～

パッションフルーツ栽培も終盤を迎えました。栽培後半は気温・湿度の上昇に加え、パッションの樹自体も疲れてしまい、病害虫の発生が増加します。今回は、いくつかの現場の実例をもとに予防・対処法を説明します。

### 1. 株元に堆積した植物残渣

パッションには、疫病や萎凋病といった土壌や地際部から感染する病害があるため、株元に残渣が堆積していると病害の発生に好適な条件となってしまいます。また、アフリカマイマイやナメクジの住処となり、株元を食害されることで、病害の発生リスクが高くなります(図1、2)。摘葉や間引き枝の残渣は圃場内には残さないようにしましょう。



図1 残渣に隠れて株元にいたナメクジ



図2 アフリカマイマイによる食害痕

### 2. 風に煽られ、支柱と擦れて傷ついた主枝

植物体の傷は、病害の主要な感染源となります。特に露地栽培では風に煽られやすいため、支柱にしっかりと誘引する必要がありますが、ゴム製品(ゴムスビー等)を使うと生長しても植物体にめり込まず、しっかりと誘

引できます。また、傷が出来てしまった後は、傷口周辺にトップジン M ペーストを塗り、菌の侵入を防ぎましょう(図3)。



図3 支柱との擦傷にトップジン M ペーストを塗布

### 3. 地際部の褐変が見られた場合

地際の褐色病斑は疫病や萎凋病の可能性がありますが。初期の病斑を発見した場合は、病斑と病斑周囲の表皮を削り、削った部分にトップジン M ペーストを塗布することで、病状の進展を抑えることができていたケースがありました(図4)。ポイントは、①表層部分を丁寧に削る、②病斑の範囲より0.5~1 cm 程度広めに削る、③ペーストは全体にしっかりと塗布することです。



図4 病勢が止まった処理(左)と進んでいる処理(右)

普段から病害のリスクを減らし、今後も高品質のパッションフルーツを生産していきましょう。

<菅原>

## ～ 高品質マンゴーを収穫するための夏から秋の管理 ～

前々号の農業センターニュース(No.105号)では、マンゴーの冬から春の管理について記述しました。今回は夏から秋の管理について紹介します。

その前に、今年のマンゴーは、父島・母島共に花芽の形成が悪く、生産量が例年と比べて大きく落ち込むことが予想されます。花芽形成には、花芽分化期の土壤の乾燥や低温遭遇、結果母枝の誘引等、ストレスが必要ですが、今年は何が原因だったのでしょうか？

過去 30 年間の平均気温と今年の気温を比較してみました。図 1 のように、今年の冬は平均より 1～2℃程度高く推移していることがわかります。マンゴーは 20℃以下の温度で花芽分化しますが、着花枝率は 20℃で 26.7%、15℃で 96.7%というデータがあります。十分な低温に遭遇しなかったことが花芽形成が抑制された原因の一つとして考えられます。

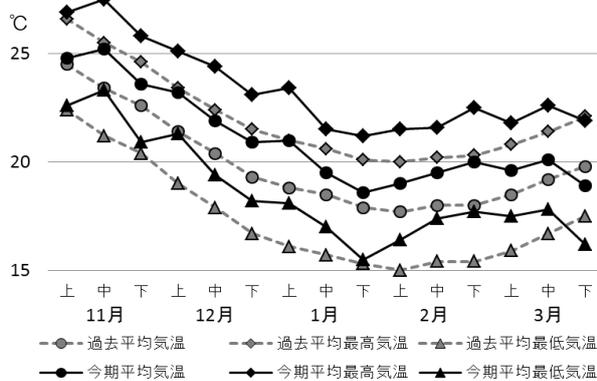


図1 過去 30 年と今期の平均気温の推移

また、前年の着果過多や、収穫後の施肥や剪定などの管理が十分でないと、翌年の花芽形成に影響がありますので注意しましょう。

気温を下げる技術は困難でコストがかかります。温暖化が叫ばれている中、今後のマンゴー生産に対する不安もありますので、今後の研究課題にしたいと考えています。

さて、この時期のマンゴーは果実肥大期となり、握りこぶしくらいの大きさになっていることでしょう。生理落果も終わり、最終的には1果房に1～2個、葉果比50程度を目安に摘果します。奇形果や傷果はこの時に除去しましょう。

摘果が終わったら玉吊りをします。太陽光が十分に当たるように吊ることで着色が良好になります。果皮色が暗赤色になってきたら白色の袋をかけます。袋掛けの前に確実に炭疽病、アザミウマ、ハダニ類などの病害虫防除を行ってください。また、ネズミの食害も多く発生します。ハウス内にネズミが入らないよう、隙間を塞ぐなどの対策が必要です。農業センターでは10mm目合いの高密度ポリエチレン製ネットを地際部に設置し、ネズミの侵入を阻止しています。



図2 農業センターのネズミ対策

収穫後は、軸腐病の予防に果梗部をハンダゴテで焼きます。また炭疽病の予防には温湯処理や定温蒸気消毒が有効ですが、ある程度の設備が必要です。手法については農業センターにお問い合わせください。

最後にお礼肥を施し、翌年に向けて体力を回復させます。収穫後の剪定は1節分の切り戻し程度にとどめ、また、結果母枝を水平～それ以下に誘引し、次年の花芽形成を促進させましょう。ビニルハウスはビニルを剥ぎ、秋から冬にかけて少しでも低温に遭遇しやすい環境を整えましょう。 <小野>

2016/7/1

## ～ 第16回パッションフルーツ品評会の審査講評 ～

6月12日(日)に「第16回パッションフルーツ品評会(主催:JA東京島しょ小笠原父島支店)」が開催されました。パッションフルーツ栽培は、年々定植時期・電照時期が早まり、収穫開始時期が早くなってきていますが、今作期は前年11月～今年5月の平均気温が例年よりも1～2℃高く推移したことにより、更に開花・肥大が早まりました。今年は台風の発生もなく、気温・日照は十分に得られ、作柄・品質は良好となりました。また、日ごろからの摘葉等の細やかな管理が生産者の皆様の努力により行われていることから、品質の高い果実の収穫が収穫終期まで続くことが期待されます。

審査は村役場産業観光課、小笠原支庁産業課・農業センター職員により行われました。本年は収穫盛期の開催となったことで、生産者の皆様にとっては、忙しい出荷作業のなかで仕上げた出品物であったと思います。審査は出荷箱部門で行い、出品点数は母島から5点、父島から2点の合計7点、露地で生産された果実の出品もありました。審査項目は果実の色合い、つや、大きさ等の揃い、病虫害の有無等の商品性で、総合的に評価しました。年々、栽培技術および荷姿が向上し、出品物の差がなくなっており、審査は困難を極めました。上位入賞した出品物は、果実の着色

が良好で、色・形の揃いが優れていました。なかでも、金賞を受賞した藤谷農園の出品物は、それらが特に優れていたほか、果肉がしっかり詰まった充実した果実、果梗枝の適切な除去など園主の丁寧な仕事が想像できる、大変素晴らしい作品でした。



写真 金賞 藤谷農園の出品

新しくなった出荷箱が各方面から好評を得ているほか、出荷箱底面にウレタンマットを敷くことで輸送中の果実への衝撃を低減し、適切な追熟条件のもと内地の消費者の元へ商品が届く取り組みを行うなど、生産者の方々は、より品質の高い果実を消費者に届けるための努力を続けています。

この品評会が、生産者同士の技術の再確認の場となり、更なる技術向上に繋がれば幸いです。

今後も、より一層の小笠原パッションフルーツのブランド力の向上につながることを期待しています。 <河野>

### < 審査結果 >

金賞 小笠原村長賞  
銀賞 小笠原支庁長賞  
銅賞 島しょ農協組合長賞

母島 藤谷農園  
母島 濱崎農園  
母島 小松農園

農業センターニュースは小笠原亜熱帯農業センターのホームページにも掲載しております。

検索

小笠原支庁 → 小笠原亜熱帯農業センター → 農業センターニュース